

5 まちづくりの方針

方針1 駅前広場と駅前公園の再生

再生の考え方

駅前広場と駅前公園は、商店街を含めた一体的な開放的空間の確保として再整備します。

再整備に当たって配慮すること

- ・人が憩い、たたずむ場としてベンチなどストリートファニチャーの設置
- ・一年中花が咲く花壇やフラワーバスケットなどによる花いっぱいの空間
- ・芝生化(公園やターミナルのアイランド部など)
- ・樹木環境の再生
- ・駅前広場からいたち川への繋がりが感じられるような配慮
- ・子ども達が安心して遊べる安全な公園整備

方針2 国有地の活用

開発手法の考え方

国有地は、公的要望がない場合、一般競争入札による売却が基本的な考え方です。民間企業の場合、住宅開発が主となりますが、その際、当地区が、いたち川に近接していること、UR団地と一体的な貢献が期待されていることなどを踏まえ、本郷台駅前にふさわしいまちづくりとしての誘導が必要です。

そこで、地区計画制度を適用します。

地区計画について

地区計画では、周辺市街地の環境に配慮し、敷地内の緑化や有効なオープンスペースを確保し、駅前広場といたち川をつなぐ歩行者空間の整備を図ることを方針として定めるとともに、商業施設や地域貢献施設及び都市型住宅の立地を図ります。

そこで、地区施設としての広場や歩行者用通路、並びに用途、容積率の最低限度、敷地面積の最低限度、高さの最高限度の緩和及び建築物の形態又は意匠の制限といった項目について、地区整備計画を定めることで地域資源を生かしたまちづくりや、駅前に相応しいにぎわいの創出を実現します。

導入に向け、検討する公共的施設

- ・高齢者などの交流・支援機能(地域ケアプラザ等)
- ・区民交流機能、子育て支援機能

方針3 アクセスの改善

バス路線の拡大

区内各地から、バスアクセスできるようにします。特に、上郷公田線を活用したバスルートは、早期に導入するよう調整します。また、庄戸方面、豊田方面からのバスアクセスについて検討します。

あわせて、本郷台を利用する既定路線のバスの増便についてもバス事業者等と協議・調整を進めます。

道路整備の推進

横浜環状南線、上郷公田線の整備を推進します。

自動車利用者・自転車利用者・歩行者への配慮

本郷台駅の利用者は、徒歩(76%)の次に自転車(13%)が多いことから、自転車専用レーンの設置など、自転車利用者と歩行者の安全性・利便性を検討します。

また、通勤・通学だけでなく高齢者等の買い物のための短時間利用など、駐輪場利用が多様化していることを受けて、既存施設との連携を含めた将来的な駐輪場のあり方を検討します。

方針4 まちの運営

まちの運営の考え方

まちの運営(維持・管理等)には、既存のコミュニティと新たなコミュニティとの調和や連携が重要です。

イベントの展開

現在も、駅前ではイベントが実施されており、集客が図られています。しかし、イベントは、一過性であり、まちの発展への波及には至っていません。民間のノウハウも生かしながら、プロデュース機能を強化し、つながりのあるイベントを展開します。具体的には、地場野菜の販売などのマルシェやオープンカフェなどの導入を検討します。

商店街の活性化

現在、各商店街ではそれぞれ独自にイベント等が開催されています。今後は、駅前でのイベント開催にあたっては、商店街とも連携し、まちと商店街の活性化につなげます。

文化・アートの盛り上げ

文化・アートに関するイベントを展開します。また、文化・アート活動が盛んな施設であるあーすぷらざ、区民文化センターリリス、公会堂や地区センターなどが連携し、前記プロデュース機能により、一層の盛り上げにつなげます。

まちの維持

駅前広場や公園の花の水やり、植え替え、芝生の維持、清掃など、まちを美しく維持するための活動が必要であり、これには、地元の皆さまの取組が不可欠です。駅前エリア、UR団地、国有地それぞれで維持する主体は異なりますが、「ふるさと本郷台」への愛着や誇りを育みながら連携した活動を展開します。